

英語科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
音声や語彙、表現、文法、言語の働きを理解し、4技能5領域による実際のコミュニケーションに活用できる技能を身に付けさせること。	知識及び技能を活用し、目的・場面・状況に応じて考えを表現したり伝え合ったりして、コミュニケーションにおける見方・考え方を豊かなものとする。

	生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	<p>ア イ 英語の授業に対するやる気は感じられ、英語の歌の学習や辞書引きなど意欲的に取り組んでいる。音読や暗唱などにも積極的に取り組んでいる。自己表現や作文などにも活発に取り組んでほしい。</p>	<p>ア 英語の歌や辞書引きなどを取り入れ、生徒の興味関心をもたせるとともに、語彙や表現力の向上に役立たせる。</p> <p>イ 教科書を音読、暗唱、暗書することで、生徒の中に英文を多数取り込ませて自己表現の基になる英語を蓄積させる。</p>	通年	
第2学年	<p>ア イ 英語に対して苦手意識をもつ生徒が多い。語句や文法は覚えることは概ねできているが、間違いを恐れずに声を出して音読したり、既習の語句や表現を用いて会話を続けようとしたり、自己表現をしたりすることが課題である。</p>	<p>ア ペアワークの Q&amp;A、BINGO などを授業始めに取り入れ、既習表現の使用場を増やすことにより、基礎・基本の定着を図る。</p> <p>イ 音読を重視したり、場面ごとのレスポンスを覚えたりすることで、即興性のあるやり取りにつなげる。またトピックの提示や写真・イラストを用いて生徒の興味を高める設定をし、積極的な発話の促進を図る。</p>	通年	
第3学年	<p>ア 間違いを恐れずに言語使用ができるが、言語材料の特徴や決まりに対する理解と定着が不十分である。</p> <p>イ 知識・技能を働かせながら、相手に配慮してコミュニケーションを継続したり、自分の生活や社会とのあり方を結び付ける学びを実現したりすることには課題がある。</p>	<p>ア 単元目標の達成のために必要な言語材料を確認しながら、徐々に学びを深められるスモールステップ方式による文法・本文指導を設け、見通しをもって自己調整を図れるようにして、理解と定着を促す。</p> <p>イ 目的・場面・状況を明確にしたコミュニケーション場を2時間中1回は設けて、学習の有用性を実感できる指導を行う。また、コミュニケーションの習得状況について、中間評価を利用し改善を図らせる。</p>	通年	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
<p>[第1学年]【重点:協働】デジタル教科書を使用した音読練習や単語の発音練習等を行う。</p> <p>[第2学年]【重点:個人】デジタル教科書を使用した音読練習や単語の発音練習等を行う。</p> <p>[第3学年]【重点:協働】[話すこと]を単元目標とする分野の中間評価において、撮影・録画を活用して、他者と協働して学びの調整を行える機会を設ける。</p> <p>[話すこと・書くこと]で生成 AI を使わせ、学びの質の昇華を図る。</p>	<p>[第1学年] 授業の流れと目標を提示する。単元の始まりに大まかな流れや目標を確認する。教科書の暗唱や暗書を行うことで、基本的な力を付けさせることを目標としているため、それに取り組める力や意欲を付けさせる。</p> <p>[第2学年] 毎授業の目標と授業の流れを掲示し、授業への意識を高めさせる。また、ノート作りを工夫させることで家庭学習の習慣を定着させる。</p> <p>[第3学年] 単元導入となる第1時で、単元目標を明確に示す。本時の目標と各学習内容を単元目標と関連させて設定することで、単元目標に必要な力に繰り返し迫らせながら、目標までの距離と解決策を知り、主体的に学ぶ指導計画を構築する。</p>

